

旧町名	よみがな	由来	現在の町名	住居表示の実施	校下名	備考
又五郎町	またごろうちょう	加賀藩士、横山又五郎政賢の邸地があったので、明治5年、この名がついた	材木町	S41.2.1	材木町	
松本町	まつもとちょう	文政6年(1823年)川上新町から立町された。地子町の一つ。川上新町から立町された八町の一つ	城南2丁目、菊川1・2丁目	S39.4.1	菊川	
大豆田新町	まめだしんまち	持筒足軽の組屋敷地であった。町名はかつて大豆田村地内にあったことによる。明治4年町名となった	大和町	S41.9.1	長土塀	
大豆田町	まめだまち	石川県大豆田村の地で町立てが行われたことによる。地子町の一つ	長土塀3丁目、大和町	S40.9.1/S41.9.1	長土塀	
水車町	みずぐるままち	藩政初期、松任から来た油屋が用水に水車をかけて灯油などの製造を行ったことから、この名がついた。地子町の一つ	小橋町、元町2丁目	S41.9.1/S50.2.1	浅野町	
味噌蔵町間の町	みそくらちょうあいのまち	藩政初期に軍用の味噌蔵が建てられていたところから、この名がついたという。味噌蔵を冠した町は六町あって、その一つが当町である	兼六元町	S41.2.1	味噌蔵町	
味噌蔵町片原町	みそくらちょうかたはらまち	藩政初期に軍用の味噌蔵が建てられていたところから、この名がついたという。味噌蔵を冠した町は六町あって、その一つが当町である	大手町、尾張町1丁目	S41.2.1/S45.6.1	味噌蔵町	
味噌蔵町上中町	みそくらちょうかみなかちょう	藩政初期に軍用の味噌蔵が建てられていたところから、この名がついたという。味噌蔵を冠した町は六町あって、その一つが当町である	兼六元町	S41.2.1	味噌蔵町	
味噌蔵町下中町	みそくらちょうしوناかちょう	藩政初期に軍用の味噌蔵が建てられていたところから、この名がついたという。味噌蔵を冠した町は六町あって、その一つが当町である	大手町、兼六元町、橋場町、尾張町1丁目	S41.2.1/S45.6.1	味噌蔵町	
味噌蔵町東町	みそくらちょうひがしちょう	藩政初期に軍用の味噌蔵が建てられていたところから、この名がついたという。味噌蔵を冠した町は六町あって、その一つが当町である	兼六元町、橋場町、材木町	S41.2.1	味噌蔵町	
三構	みつがまえ	もと高巖寺前といったが、これを光岩寺とも書き、のちに光岩前を略して「みつがまえ」と呼んだことからこの名がついたといわれる	芳齋1・2丁目	S40.9.1	芳齋	
南石坂町	みなみいっさかまち	文政6年(1823年)石坂町の南にあったことで通称が町名となった。地子町の一つ	野町2丁目	S42.9.1	野町	
南町	みなみちょう	藩政期以前に「一向宗」が金沢御堂を拠点に寺内町を形成した永禄年間(1558-70年)にできたといわれる。金沢において、最も古い町の一つ。町名の由来は、当時は、金沢御堂の南側にあったことに因むといわれる	高岡町、香林坊2丁目、香林坊1丁目、尾山町	S40.9.1/S41.2.1	松ヶ枝	H20.11.1 復活
南長門町	みなみながとまち	加賀藩士、山崎長門の邸地があったところから、はじめは長門町と呼ばれていた。文政6年(1823年)、長門上ヶ町が町立てされた。長門上ヶ町は、文政6年(1823年)改称され、南長門町になった	片町2丁目、中央通町	S40.9.1	長町	
元車町	もとぐるままち	藩政初期、大豆田用水に水車を設け灯油を製造したところから、犀川油車、油車町とも呼ばれていたが、のち、この名がついた。地子町の一つ	長土塀2・3丁目	S40.9.1	長土塀	
木綿町	もめんまち	かつて木綿問屋が居住したことによる。地子町の一つ	東山1・2丁目	S41.9.1	馬場	
桃畠町	ももばたけまち	もと泉野村の地で藩政期に桃の木が多く植えられたので桃畠と呼ばれたという。また、古くからこの地に桃畠があったからともいわれる。のち、民家が建ち、明治4年町名になった	野町3丁目、弥生1丁目	S42.9.1	野町	
森下町	もりもとまち	藩政初期、森下村の郷土、亀田大隅の子孫が染工になって居住していたので、この名がつけられた。本町の一つ	東山1・2・3丁目、森山1丁目	S41.9.1	馬場	